放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年3月20日　　事業所名　放課後等デイサービス　ガッツ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・事業所占有面積を100㎡以上確保しています。	スペースの有効活動 机の配置など間げながら、利用者のニーズに合った空間を作っていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		・法令に基づき適切に配置しています。 ・利用時の特性に応じて増員しています。	今後も継続して職員は増やしていく。その都度職員の紹介を行いながら、保護者への周知を行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・入り口部分はスロープを完備しています。 ・事業所内は完全バリアフリーです。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		都度問題解決、改善に努めている。	業務改善については主任と責任者で話し合いながら、働きやす環境を作っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・年度に1度以上、評価表を活用したアンケートを実施し、改善に努めています。	アンケートをもとに、スタッフ共有を行い改善に取り組んでいく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・自社ホームページにて公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員への外部研修への参加を促している。また事業所内での研修を行い、知識の向上に努めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・保護者や他利用事業所との情報の共有などを通して、適切な分析を行い、計画に反映しています。	保護者だけではなく、相談支援事業所や関係機関との情報交換を行い計画書に反映している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・標準化したアセスメントシートを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・事業所全体でプログラムの立案を行なっている。	スタッフの片寄りが出ないように、バランス良くカリキュラムに取り組むように心掛けている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・各所から情報を仕入れ、プログラムが固定化しないよう努めています。	保護者のニーズや利用者のニーズをとらえながら、カリキュラムの作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			利用時間に合わせて、スケジュールは変更している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		・ご本人の特性に応じた計画の作成を行なっています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・併設2事業所と合同朝礼を実施している。	全体ミーティング。各事業所に分かれてのミーティングを毎日実施している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・必要に応じて実施している。	帰りの送迎時の保護者とのやりとりや、活動の振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・個別支援計画書に沿って記録を取り、支援の検証・改善を行なっている。	記録の記入に関してはスタッフで分担して行っている。偏りがでないことと、記録の技術向上の為研修への参加を行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		・必要に応じて適切に連携しています。	年度初めなどは、新しい担任の先生へのあいさつ、受け渡し方法の確認を行っている、都度学校への確認が欲しい場合は保護者を通し、情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・現在、医療的ケアが必要な方のご利用はないが、ご利用の際には連絡体制の確保ができている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・保護者を通じて、必要に応じて提供していただきます。	新一年生の受け入れに関しては、保護者へ承諾を得たうえで、利用開始前に事前に情報共有を行っている。電話だけでなく、見学に行くなどし対応している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・ご希望委応じて、情報の提供ができる体制を確保しています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		あいあいセンターをはじめとして、福岡市などの専門機関の研修に職員が参加しています。	研修委員会を通し、各職員に合わせた研修参加を促している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			外部との関りを作ることができていなかったので、今後は外部とのつながりが漏れる場を提供できるように心がけていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			まずはネットワーク会議へ参加し情報交換を行っている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳や送迎時に情報の共有や共通理解を持てるようにしています。	気になる点に関しては、送迎時以外でも管理者より保護者へ連絡を入れ、状況の説明をするように心掛けている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	○		・必要に応じて支援・助言などをしています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・必要に応じて支援・助言などをしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・年に1度以上開催できるよう努めています。	感染拡大防止の観点より現在保護者会は行えていない。保護者面談という形で少人数での場を設けている。保護者のニーズに合わせ情報の提供ができるように心掛けている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・都度、対応しています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・事業所だよりや、ホームページを通じて発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		・十分に注意して取り扱っています。 ・社内全職員に対して、雇用時に個人情報保護に関する宣誓書を取っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・コミュニケーションボードなどの活用をしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・社内イベントで地域の方々に参加して頂いています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・策定し周知に努めています。	各委員会を通しマニュアルの見直しや研修への参加、各事業所への情報伝達を行っている。またBCPの作成を行い、職員への情報共有を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・法令に基づいて、利用者様も一緒に実施しています。 ・消火訓練は、利用者様にも体験していただくことで、防災に関する意識を持っていただいています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・年度に1度以上実施しています。	虐待防止委員会が主となり外部研修だけではなく、合同研修を行う。 職員のセルフチェックなど取り入れながら、虐待防止への意識づけが定期的に行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・契約時にご説明しています。 ・特性上、可能性が高い場合は、繰り返しご説明し、計画にも記載します。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・必要に応じて医師の指示書を頂きます。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故防止委員会にて事業所ごとの報告を行いながら事故防止に努めている	ヒヤリハットの定着化をはかり声掛けを都度行っている。